

## (1) 果樹

### <ぶどう>

- ・樹勢や労働配分等を考慮して、加温開始時期を決定する。
- ・品種、作型、生育ステージに合わせた温度管理に努める。
- ・早期加温では休眠覚醒が不十分であるため、発芽促進剤を使用して発芽促進処理を行う。
- ・1月下旬以降の加温栽培では、予備保温を行うことで燃料の節減となる。

マスカット・オブ・アレキサンドリア加温栽培（1月下旬以降）の温度管理の目安

生育期	昼温（℃）	夜温（℃）	備考
被覆	35 以下	保温	被覆後、十分にかん水する
加温開始～ 発芽・展葉始期	35 以下	20	発芽まで湿度は高めにする
展葉期～ 新梢伸長期	30 以下	20	展葉後は内張カーテンを開け、光をよく入れる
開花期	25～28	20	
幼果期	28 以下	18	この時期に高温で経過すると、軸ぶくれ、果粒肥大不良を招くので高温は避ける
硬核期	28 以下	20	シミ、日射病などの生理障害の発生を避けるため、昼夜の温度差を小さくする
成熟期	28 以下	18	果粒軟化以降は、夜間結露しない範囲で温度を低めに管理する

（岡山県果樹栽培指針）

ピオーネ普通加温栽培（1月中旬～2月中旬加温）の温度管理の目安

生育期	昼温（℃）	夜温（℃）	備考
被覆	30～35	保温	被覆後、十分にかん水する
加温始 1 週目 2 週目 3 週目	30 30 25～30	10～12 13～15 16～18	予備保温期間が短い場合は漸昇加温とする ブリージングまでは湿度を高く維持する
発芽期 展葉期 新梢伸長期	25～28  25～28	20 16～18 16～18	発芽後は内張フィルムの開閉、換気に努める 発芽後のかん水は控えめにする 換気によって高温と過湿を防ぐ
開花期 GA 1 回 果粒肥大期	25～30 25～28 25～28	20 18～20 18～20	換気に努める  かん水は十分に行う
果粒軟化期 軟化後 3 週目	30 以下 30 以下	16～17 18～20	この時期は土壌水分の変動を少なくする この時期が 6 月となる作型では加温を終了
成熟期	30 以下	18～20	収穫後、土壌を乾燥させない

（岡山県果樹栽培指針）